

# 会 議 録

□全部記録 ■要点記録

<b>1 会議名</b>	第3回姫路市教育振興基本計画審議会
<b>2 開催日時</b>	令和元年8月19日（月曜日） 14時00分～16時20分
<b>3 開催場所</b>	姫路市総合福祉会館 5階 第2会議室
<b>4 出席者</b>	（出席者）姫路市教育振興基本計画審議会委員15名 （事務局）教育長、教育次長、教育総務部長、学校教育部長、生涯学習部長、総務課長、教育企画課長、教職員課長、学校指導課長、健康教育課長、人権教育課長、教育研修課長、育成支援課長、文化財課長
<b>5 傍聴の可否及び傍聴人数</b>	傍聴可、傍聴人0名
<b>6 次第</b>	1 開 会 2 挨拶 3 議 事 （1）基本的な計画（社会教育分野）について （2）指標について （3）姫路市教育振興基本計画（素案）（案）について 4 連絡事項 5 閉 会
<b>7 会議の要点内容</b>	以下のとおり

事務局	<p>1 開会</p> <p>第3回姫路市教育振興基本計画審議会を開会する。</p>
教育長	<p>2 挨拶</p> <p>本日は、御多用のところ、御出席いただき感謝申し上げます。</p> <p>平素は、本市の教育行政の推進に多大な御支援をいただき、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。</p> <p>さて、前回の審議会においては、姫路の教育の目指す姿について、また、学校教育分野の基本的な計画について、各委員から御意見をいただいた。</p> <p>本日は、3つの議題について協議いただきたいと考えている。</p> <p>一点目の「基本的な計画（社会教育分野）」については、前回の学校教育分野に続いて、社会教育分野の基本的政策、政策、施策、事業について、御意見をいただきたいと考えている。</p> <p>二点目の「指標」については、各施策の効果を検証し、より効果的・効率的な施策の立案に生かしていくサイクルを確立するため、今回新たに、施策ごとに設定しようとするものである。施策の目的に対して適切な指標であるかといった観点で、御意見をいただきたいと考えている。</p> <p>三点目の「姫路市教育振興基本計画 素案」については、前回の姫路の教育の目指す姿や学校教育分野の基本的な計画に、今回の社会教育分野の基本的な計画及び施策ごとの指標を合わせて一つにまとめたものを素案としたいと考えており、全体としても御意見をいただきたいと考えている。</p> <p>委員の皆様におかれては、それぞれのお立場からの知見などを基に、様々な御意見をいただき、活発な審議をお願いできればと考えている。</p> <p>よろしくお願い申し上げます。</p>
事務局	<p>会議成立報告</p>
会長	<p>(公開可否の決定)</p> <p>本日の審議会は、異議がなければ公開とするがよいか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>異議なしと認めて公開とする。</p>

会長	<p>(第2回会議録の確認)</p> <p>前回の会議録を確認する。</p> <p>委員の皆様には、事前に第2回審議会の会議録(案)をお送りしているが、これについて修正等、何か意見はあるか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>会議録として決定し、市政情報センターやホームページで公開する。</p>
会長	<p>3 議事</p> <p>本日の議題は三点ある。一点目は、前回は学校教育分野について御審議いただき、事業にも御意見をいただいた。今回は社会教育分野について、体系図を含めて、御審議いただきたい。二点目は、今回から本計画に達成度を測る指標を入れる。本計画は基本的政策、政策、施策、事業という体系でできている。色々なやり方があるが、本計画は施策ごとの指標ということで案が今回できているのでそれを御審議いただきたい。三点目として、今回審議する(二点目の)社会教育分野を抜いた形で素案(案)を示している。二点目を合わせて、全体を見て御意見をいただきたい。</p> <p>まず、「議事(1) 基本的な計画(社会教育分野)について」事務局から説明をお願いする。</p>
事務局	<p>議事(1) 基本的な計画(社会教育分野)について説明</p> <p>〔資料1〕計画体系図 新旧比較表〔社会教育分野〕</p> <p>〔資料2〕第2期「姫路市教育振興基本計画」における施策・事業・指標について</p>
会長	<p>ただ今、事務局から「議事(1) 基本的な計画(社会教育分野)について」説明があったが、皆様から忌憚のない御意見、また御質問等をいただきたい。</p> <p>指標は議事2で御意見を伺いたい。</p>
委員	<p>公民館は社会教育法に基づく生涯学習や地域コミュニティの場と説明したが、昨年度くらいに市民活動推進課では地域活動をもっと良くするために、地域活動の組織を再編する実証実験を行おうとしている。その場所として公民館を使っていこうという</p>

話が市で出ている。館長会で了承してモデル的にそのような公民館ができて良いだろうということで色々話をしている。そういうことを踏まえた上で、生涯学習支援体制の充実ということで地域講座や教養講座といった生涯学習の場を残していくのかということを確認したい。

事務局

御指摘のとおり、地域活動拠点施設と位置付けて地域活性化を図ろうと今年度から実証実験を始めていて、3～5地区においてモデル実施する予定である。

公民館の元々の機能である、社会教育機能や生涯学習機能は残しつつ、地域の特性を生かして、地域で自らのように、更に公民館を有効活用していただくかをモデル的に取り組んでいただこうとするものである。地域の方々から公民館も含めて、検討していただいた中で、今よりも有効に活用していただける方策というものをモデル的に出していただいて、それが上手くいくということであれば全市的に広げていく形で取り組んでいきたい。中・長期的には5～10年を目途に、今より、地域が活性化されるような方策を地域と共に考えていきたいと取り組んでいる。その中で、公民館が担っている社会教育機能をどのように残していくかについても、実証実験の中で地域と共に考えていきたい。

会長

今の組織の話が示しているように、社会教育施設という例が出た。当然、市民の学習の場であるが、地域づくり、あるいは地域の中での人々の絆づくりを担うということだろう。そうすると、人づくり、生涯学習という面では教育委員会がタッチするのは当然だが、地域づくり、街づくり、あるいは絆づくりとなると市長部局となり、どちらが管轄するのか。社会教育施設はその自治体の判断で教育委員会から市長部局に移管できるが、姫路市はどうか。

事務局

実証実験をやっている間は教育委員会。実証がうまくいけば、市長部局がやることも検討したい。

会長

今回の計画期間では教育委員会ということか。

事務局

基本的にはそう考えている。

委員	<p>社会教育委員を務めている。その関係で美術館や文学館の催し物について目を通すようにしている。美術館の入場者数が急増していて、とても素晴らしいと思う。文学館もいつも職員が緻密な努力をして色々な企画を立てたり、人を集める色々なシステムがあつたりして活発であると思っている。</p> <p>少し悲しく思うのが、書写の里・美術工芸館（以下、「美術工芸館」という。）について、建物はとても素敵だが、中に入ると変わりばえしなくて楽しくないと思う。外観にふさわしい素敵な催し物を考えてほしい。</p>
事務局	<p>美術工芸館は書写の素晴らしい場所にあり、竹林の前に建物があり、景観的に優れていると認識している。御指摘のとおり、美術館は入館者数が増加しており、色々と工夫を凝らしているところだが、美術工芸館については入館者数が伸び悩んでいる。建設から25年経ち、大規模改修を見据え、昨年度サウンディング調査を行い、民間業者にも提案をいただいたところである。引き続き民間事業者の意見も聞き参考にしながら、魅力ある施設づくりをしたいと思い取り組んでいる。</p>
会長	<p>今回の計画に何か関連する事業はあるか</p>
事務局	<p>資料2の22ページ、3-1-③「生涯学習関連施設の整備」に先ほど申し上げたとおり、具体的ではないが施設改修について掲載している。</p>
委員	<p>美術工芸館であるが、確かに入場者が少ない、展示の広がりがないということもあるのかもしれない。</p> <p>一方で、学芸員が結構研究されている。姫路は城下町なので非常に多様な工芸品がある。我々市民が全く知らない物が非常に多い。非常に特徴ある工芸地帯になっている。ここ2～3年研究して、姫路は工芸品が非常に豊かな地域であるということを発表されている。結構注目を集めている。ただ、点で結んでいって入場者が増えるというような段階にまでは、まだ多分到達していないのではないかな。</p> <p>研究そのものは、むしろ美術館、文学館という研究所として新しい研究をされているという側面があるので、それをもう少しきちんと行政がフォローしながら発信するような体制をつくってほしい。美術館、文学館は市の直轄になっている。</p> <p>美術工芸館は文化振興財団の管轄になっているということで、少し筋が違う。それ</p>

会長	<p>を同じような指揮命令系統にしていくことで効率化を図っていければ更に大きな効果が出るという気がする。</p> <p>研究は進んでいるということで、また参考にしてほしい。</p>
委員	<p>資料2の22ページの3-1-③「施設のバリアフリー化」というところ、公民館は地元であって学習の機会がある。高齢の方もであるが、2階に行くとき車椅子で行く場合はなかなか階段では難しいので、どの程度のバリアフリー化を考えているのか。トイレにしても、障害者の方が使用する多目的トイレについてどこまで考えているのか聞きたいというのが一点。</p> <p>もう一点は、資料2の24ページの3-2-⑤「市民教養講座の充実について」は、知る人ぞ知る、20～30年続いている素晴らしい講座である。質の高い歴史講座を長い年月続けている。私も参加して話を聞いているが、参加者の学ぶ意識が高く、80歳を越える高齢の方が毎年参加される充実した生涯学習課を代表する良い講座なので、是非続けていただければ嬉しい。</p>
事務局	<p>公民館のバリアフリー化については、大規模改修に合わせて取り組みたい。また、エレベーターについては、構造や敷地の関係で、設置困難な公民館もあるが、可能な限り設置していきたいと考えている。</p> <p>また、改修に合わせて、使用頻度の高い部屋をより使いやすい場所や1階部分に持つてくることを地域の方と相談しながら可能な範囲で取り組んでいきたい。</p> <p>市民教養講座については、人気があるため、企画内容を精査しながら、今後も皆さんに喜んでいただけるような講座を開催していきたい。</p>
委員	<p>資料2の22ページに「公民館活動のリーダー育成」が出ている。現在、人材育成のための予算をいただいて年間4、5回会議をして、リーダー育成を行っているが、それをまた新たにというか、事業の趣旨はどのようなものか。</p>
事務局	<p>利用者が固定化しているという課題があると聞いている。拡充ということで、現在も行っている公民館のリーダー育成に力を入れていきたい。</p>
委員	<p>リーダー研修会、講習会では公民館の文化講座や企画発表会の運営をしてもらって</p>

事務局	<p>いる。そこから新しいリーダーが出るようにと、公民館に持って行っているが、なかなか高齢者が多く、担い手がない。若い人も三世代交流をして、公民館を知ってもらおうと活動している。</p> <p>バリアフリーに関する意見が出たが、文化講座で次から参加できないというのは、2階に上がれないという方である。そのような方のために1階の部屋で文化講座を開催するなど色々と工夫しているところである。ぜひバリアフリー化を加速してほしい。</p> <p>一気にできなくて申し訳ない。今年度は2館、来年度4館の改修予定ということで、これからも積極的に取り組みたいと思っている。各館ともホームページを利用した情報発信を行っている。御指摘のあったように高齢者の利用率が高いということだが、三世代交流等若い方が公民館に興味を持ち利用していただくという取組を、情報発信等を通じて今後も進めていきたいと思う。</p>
委員	<p>資料2の27ページの4-2-③「青少年団体の育成と活動支援」について、補助金の交付とあるが、どのような団体に対し出ているか。</p>
事務局	<p>姫路市子ども会連合会、姫路スカウト連合会、姫路市児童合唱団、市立学校園の各PTA連合会に補助金を出している。</p>
委員	<p>補助金のことでは気になったが、前回の議題である資料2の20ページ 施策2-3「学校と地域等の協働体制の構築」について、一番気になっているのは、子ども会が各自治会で消滅してきているところが多くある。地域の教育力を高める上で大きな役割を果たしているのが、私は子ども会ではないかと思う。子ども会の再生といった方策、施策を講じられないのか。</p> <p>子ども会というのは、保護者や子供がPTAと同じ構成員である。私はPTAが消滅してきているという話は聞いたことがない。一方では、子ども会は各自治会で消滅してきている。資料にあるように、ふるさとを愛し、将来の地域の担い手になる子供を、地域の教育力によって育てていかなければならない。そのことについて考え方を聞かせていただきたい。</p>
事務局	<p>資料2の28ページの4-3-②「地域愛護育成会・健育委員会活動の充実」について</p>

	<p>て、子ども会中心に地域で取り組んでもらっており、子ども会に対する補助金以外にも助成ができないか考えている。</p> <p>しかし、御指摘があったように、活動が実施できなかった地域が出てきていることも事実であるため、地域愛護育成会・健育委員会活動を充実させていきたいと考えている。</p>
委員	<p>組織を維持していくことが、このように抽象的な事業内容でできるだろうか。</p>
事務局	<p>自治会も子ども会も任意団体であるため、行政がどこまで関与できるのかという難しいところがあるが、生涯学習課のフロアに子ども会連合会の事務局を設置して、日々情報や課題を共有している。行政がどのように子ども会をサポートできるかというところは今後の検討課題である。行政が民間の任意組織に大きく踏み込むことは現時点ではなかなか難しいという実感がある。</p>
委員	<p>子ども会を復活させたいと思うが、PTAと子ども会の対象者が全く一緒であるので、学校側がPTAだけでなく、子ども会も維持できるように協力してもらえないか。自治会が子ども会に補助を出しているところもあるし出していないところもある。また、子ども会で会費を取っているところもあれば取っていないところもあり、地域でバラバラである。PTAの組織があり、子ども会と構成員が一緒であるので、上手に連携できないのかなと思う。学校の力は強いので。</p>
事務局	<p>生涯学習課のフロアにPTA連合会も事務局を設置しているため、事務局、子ども会連合会と共に日々課題を共有し、積極的に連携を進めていきたい。</p>
会長	<p>議事2に移る。「議事(2) 指標について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>議事(2) 指標について説明</p> <p>〔資料2〕第2期「姫路市教育振興基本計画」における施策・事業・指標について</p>
会長	<p>施策について設けられた指標について、適切かどうか、新たな指標はあるかといったところの御意見をいただきたい。</p>



	<p>その前に、資料に目標値の記載がないが、目標値はどうするのか。</p>
事務局	<p>目標値については、毎年各事業の点検評価を行うので、そちらに別途目標値を設定し、進捗状況を管理していこうと考えている。</p>
会長	<p>姫路市教育振興基本計画の中に目標値を入れないのか。</p>
事務局	<p>目標値は入れずに、指標項目のみを示すということで進めていきたいと考えている。</p>
会長	<p>そのことも含めて御意見をいただきたい。</p>
委員	<p>一つ一つの指標に行く前に、指標の考え方ということで、資料3の53ページで説明があったように、指標を設定すること自体は一つの目安ということで良いが、教育というものはすぐに成果が出ることを求めてしまうと、かえっておかしなことになってしまうのではないかと。</p> <p>また、政策と成果との因果関係の証明が難しいということが前段階で文章の中に書いてある。まったくその通りであると思う。ただ、数字が出てしまうと一人歩きしてしまう。全国学力・学習状況調査にしても、マスコミが取り上げるのはほとんど数字で、それによってその県の教育の全てを語っているような錯覚に陥る危険性がある。</p> <p>例えば、魅力ある姫路の教育の推進の施策の中で、前回はその施策の一つに「家庭地域の教育力を生かした学校支援の推進」というのが入っていた。今回は「魅力ある姫路の教育の推進」から「家庭地域」の部分が外れて、子供の学びを支える教育環境の推進のところに入っていった。子供の、例えば、確かな学力のところの指標がなかなか難しい数値になっていたと。それは全て学校教育が担うところなのか。そこには色々な原因があると思う。地域、家庭の話ということもあるだろうし。</p> <p>何が言いたいかというと、数字というのは危険性がある。もちろん学力については学校側が責任持って担うわけであるが、学校教育をサポートする、学校だけじゃないところの手立てに目を向けて行くところを、指標を設定する前提条件としてしっかり押さえておくべきではないか。</p> <p>数字が一人歩きをして、学校教育のところの数字が悪かったよ、それは全て学校が原因なのか。学校が全責任を取るのか。そういうふうにならないような指標の捉え方</p>

を前提、最初の考え方として押さえておくべきではないか。今、一つのトレンドとして、大切な部分であると思う。地域に開かれた学校、もちろんその通りだと思う。地域と学校が一緒にやっていく。成績悪いのは学校のせいだということになってしまったら違う方向に行ってしまうと思う。もちろん学校はやらなければならないのは当たり前前の話である。それにプラスして、みんなで責任を持とうという流れを大事にしていく。この指標がそれとは逆にならないようにすることには注意を要すると思う。

事務局

今の御指摘はよく理解できる。資料3の53ページの上から3行目「成果に対して家庭環境などの他の要因が影響する機会が多いため、成果は多様である。また、成果に対して家庭環境など他の要因が影響する機会が多いため、政策と成果との因果関係を証明することは難しい。」と記載している。また、指標設定の目的は、第二段落1行目、次の取組につなげるためであるということをも明記し、文章として確認させていただきたい。

事務局

補足する。委員御指摘のとおりだが、どちらかという、指標は何らかの点に視点を置いていかなければならない。ただ、評価については、色々な視点から考えたい。

委員

目標値は設定しなければならないと思う。ただ、学校教育と社会教育では目標設定が違うと思う。社会教育は参加者、入館者が何%増えたという捉え方、これも一つの成果だろうが、人数だけで出すことになれば、ただ来ただけの人もありうるわけで、峻別するのは難しい問題である。人数だけということであれば、少し注釈がいるのではないか。

例えば、ボランティアグループに参加した、研修を受けた人から、実際に活動に結びつけた人がいるか、これは人数に関係なく大きな成果になるのではないか。これはなかなか抽出が難しいが、やはりそういうところが必要ではないか。人を入れたらいいという段々と安易な企画に走ればいいというわけではない。地域の文化創造を何らかの形でつなげていく、講座等に参加した人がどれくらい結びついたか、たとえ一人でも、それが分かるような指標になれば説得力があるのではないか。

会長

なかなか難しい。入場者数等は人口が減っていくので、目標値は右肩上がりではなくて、右肩下がり必然。そこをどう見込むか、また、先ほどの話のように本質を捉え

るのは難しい。姫路市民の歴史に対する認識度が上がったか、文化度が上がったか、抽象的なので難しい。

先ほどの御意見を取り入れて、ボランティア講座等に参加して、実際その人がボランティア活動をするようになった人など、そういったところか。指標として出せるのか。

事務局

姫路の郷土を愛する、文化水準を上げるといったものは数字で計るのは困難だが、もっと生涯学習を通して学びたい、深めたいなどという人が、もっと図書館等に通ってみよう、美術館に行ってみようとするのであれば、一概に言えないが、例えばリピーターが増える、あるいはリピーターを一定数維持できるのであれば、それだけ姫路の文化度が上がっているといえるのではないかと、そういった視点から、生涯を通して学び続けたいということを経験できないかと考えている。

会長

リピート率は説得力があるような気がする。

委員

こういう二つの指標を表示する時、今言ったようなことが書きようがない。欄外に注とか米印で書くとか。こういう影響、効果があったと。全部書く必要はないが。特に先ほどのボランティアであったり、あるいは、城郭研究センターがやっている古文書の解説について、あの中からどういう人が出てきて本を出したとか、それも一つの大きな成果だと思う。

それから、美術工芸館で5、6人の先生がおられて色々な技術の伝承をやっている。弟子の数もそうであるが、その弟子が展覧会を開いたとか作品を残したとか、そういうことになってくると人数が100人増えるよりも非常に大きな成果である。そういうことを書いていくことによって、姫路の文化水準が上がった、担い手が増えてきたということが分かるのではないかと。難しいかもしれないが、単純に人数だけじゃなくて、そういうところに色を付けるというか、全てではないが、特に目立っているものについて、やっている施策の中からはいくつかピックアップでもできたらと思う。具体的な根拠になると思う。

委員

学校の取組について指標を設けることはとても大事であるし、学校においても何かを始める時には必ず目標を立てて取り組み、その成果を検証している。例えば、この

「確かな学力」の指標に二点を挙げて、この二点ができていれば確かな学力が付いたんだと判断してしまうというところに少し違和感がある。

例えば、学校の勉強はとともよく分かるかと答えた。でも、学校のテストの点数はとれない。そういう場合も多々ある。そのため、総合的に判断して評価すべきである。たくさん評価したものを総合的に見てどうであったのかという評価をするのであれば分かるが、この二点について、このパーセントだったから上がっていると判断するのは危険であるし、学校に勤めている者はこの二点で指標にするというのを見ると違和感があると思うので、指標を設けるのは良いが、公に出して検証するのは少し危険であると率直に感じる。もう少し指標の設定なり、取扱いについては協議する必要があると感じる。よろしくお願ひしたい。

会長

指標を出すと今のような御意見が必ず出る。私も同じ立場なので、現場を預かる方の御意見はよく分かる。教育業界内部の者にとっては言いたいことは分かるし、共感すると思う。しかし、外から、保護者や地域から見た時に、あるいは行政や教育委員会以外の方から見た時に、姫路の学校はどういう成果を具体的に上げているのかと考へた時に、総合的に見るためには色々な要素があるので我々の説明は長くなってしまふ。長い説明では聞いても皆さんなかなか分からない。そのため、できるだけ簡潔に分かるような指標を示す必要がある。ただ、御指摘があったように、数字は分かりやすいだけに、取り分けマスメディアはすぐ数字だけ取り上げる。挙げられた指標の数字が全てを表しているわけではないが、その指標で成果を上げない限り、成果と見なされないのもまた確かである。指標設定は難しいが、全部はカバーできないので、より代表的なものを挙げるというのは努力が要る。そのような観点から設定した指標であり、これが全部ではない。

例えば、「確かな学力」のこの二つが上がらない限り評価できない。しかし、その二つだけでは測れないかもしれないということである。代表値であると、そういう考え方をさせていただくしかないということだと思ふ。

社会教育の場合は委員の言うとおりに難しい。社会教育については、委員の意見では注釈を付けたりということであるが、私もなかなか良いアイデアが出ない。

事務局

先ほど委員から出た、最終目的を達成するような指標を挙げられれば良いと思うが、最終目的まで数字を追う、調査するのが難しいため、その途中段階として、入場者数

委員	<p>やボランティアの活動人数等で見ていきたいと考えている。</p> <p>また、単に入場者数というだけではなく、可能な範囲でボランティアの活動人数や参加者数を挙げている。</p> <p>姫路市の各文化施設は姫路の人たちのためだけにあるものではないと思う。先日の美術館のチームラボの企画は、今までにない入場者数で満員御礼だった。そういうふうに各館が全国に魅力を発信する方が良いと思う。NHKの日曜美術館の最後に少しだけ姫路が出るようになったのも嬉しかった。沢山の人に来ていただけたら嬉しいなと思った。</p>
委員	<p>17 ページの 2-1-⑤「離島高校生への修学支援」について、高等学校等が設置されていない離島とあるが、家島本島には家島高校がある。離島の具体的な名前は何か。</p>
事務局	<p>通学費を助成しているが、離島振興法に家島本島は含まれない。坊勢、男鹿、西島に助成している。</p>
委員	<p>もう一つ聞きたい。定期航路の通学定期乗船券購入費の一部を補助するとある。生徒によっては通学先が遠くて補助額では足りない場合もあるような気がする。</p> <p>次に、資料2の27ページの施策4-2「青少年の交流と活動の促進」の施策の目的3行目について、心豊かでたくましい「姫路っ子」とあるが、姫路っ子という表現に違和感があるので、青少年という表現で良いと思う。</p> <p>それから、資料2の31ページ 施策5-2「多彩な文化財の保存と活用」の指標について、「文化財施設（三木家・古井家・佐野邸）」を室町後期、江戸中期の建物という表記で良いと思う。あえて固有名詞を書く必要があるのか。</p> <p>また、資料1の施策6-1-②「芸術家の育成・生涯教育の促進」について、生涯教育の促進という部分を施策3-1「生涯学習支援体制の充実」に加えた方が自然であると感じる。</p> <p>もっと言うと、子ども会について、私は自治会長をしており、子ども会に年3万円ほど補助を出したりしているが、子ども会は空き缶やダンボールを集めた収益を原資として子ども会の財政は成り立っている。</p>
事務局	<p>それぞれの注意すべき点ということで御意見をいただいたと思う。事務局で参考に</p>

委員	<p>させていただく。</p> <p>先ほどのK P I といつか指標のところについて、定性評価と定量評価では定量が分かりやすいが、学校教育の指標はどちらかと言うと定性評価に近い。学校の授業は分かりやすいなどは定性的な評価だろう。社会教育の方は入場者数など。是非は別として、定量評価の方が分かりやすい。一般企業でも定量評価を中心にした方が要因分析をしやすい。定性評価であると、色々な要因が入ってきて分析しづらい。なるべく定量評価で求めることがK P I のポイントである。</p> <p>例えば、体力の指標など、兵庫県、全国の平均値と姫路の学生の体力を比べる時に保護者には非常に分かりやすく客観的に評価できる。その原因は何か、要因分析をしてP D C A サイクルをやらなければならない。目標を定量評価で全部やるというのは、数字が一人歩きするというリスクはあるが、一番分かりやすいのは定量評価である。要因分析により対策ができるので、やはりできるかぎり、定量評価に近づける方が良いと思う。</p>
委員	<p>資料2の10ページの学校教育分野の中に1-7-③「国際理解教育の推進」という項目があった。海外留学やA L T との授業を通して国際的視点に立って主体的に行動できる人材の育成が謳われていると思う。学校教育でそこを目指すなら、学校教育で育成された人材が活躍できるフィールドや世界を社会教育で用意する必要があると考える。</p> <p>また、姫路城の保存と活用について、観光と橋渡しできたらいいと思う。姫路でも文化を担当する部局と観光を担当する部局とに分かれていると思うが、多くの国では文化と観光は統一部局内で同一の視点を併せ持つ政策が立案されていると思う。保存、活用の中にも観光の資源となる物やことがたくさん埋め込まれているはずであり、その点についてどう考えているのか。</p>
事務局	<p>観光と文化の共存は本当に難しい。観光と文化が互いに尊重しながら、文化財は一度壊れると復活できない非常に貴重なものであることを念頭において、保存と活用をしっかりと行っていきたい。</p>
委員	<p>施策5、6について、伝統的な芸能文化の伝承というものは非常に大事だと思う。</p>

例えば、資料2の29ページ 5-1-③「石積み・漆喰塗りなど匠の技の継承」事業があったり、33ページには 5-3-②「工芸技術の担い手の育成」、それ以外にも姫路独特の白なめしや祭り文化、屋台。そういうことにもっと魅力を感じて、担い手になりたいという子供を作ることが大事ではないか。

そのような事業を美術工芸館でやっているということだが、そこへ足を運ぼうと思えるように、まず、例えば公民館へ出張教室をするといったことを含めて、魅力を感じるような取組をしてほしいと思う。

また、姫路出身の高田賢三さんや桂米朝さん、車谷長吉さんなど著名人も沢山いるが、子供たちはあまり知らない。自分の育った街にそういう人がおり、自分もそうなりたいというところを知らせる、伝える手立てなどもまた必要ではないか。そういうことを通じて郷土姫路に魅力を感じる、それが人づくりになるのではないか。

事務局

11ページの1-7-⑥「郷土教育の推進」にあるとおり、地域学習資料として副読本を作成し、この地域にこのような素晴らしい文化がある、自然がある、著名な人物や歴史、伝統文化があるといったことを学ぶこともこの中に含まれている。単独の事業としてではないが、様々な学習の機会を通じて学び、郷土愛の醸成を目指していければと思う。

会長

もう一つ議題があるので、そちらの説明をお願いしたい。その説明を聞いた上で、今後の進め方について決めていきたい。

事務局

議事3 計画素案(案)について説明

会長

資料3で全体を示してもらったが、指標を新たに設定したことは大変結構だが、それだけに多様な意見が出た。それと共に慎重にやらなければいけないと思った。この計画は、姫路市の今後5年間の学校教育と社会教育の在り方を基本的に決めていくものである。取り分け、指標については慎重にやるべきだと思う。委員の皆さんにも納得していないところもあるのではないかと思う。私としては目標値を出すべきだと思う。

二つ目は、学校教育の意見が色々出たが、社会教育についてはなかなか難しい。もう一度指標を見直した方が良いと思う。

また、委員から意見があったように、定性的評価も含めて考えた方が良い気がする。そのような諸々を含め再検討して、資料3の完成版を作ってほしい。つまり、資料1、2の入る部分があったが、今日の意見を含めて修正したものと、指標も新たに付け加えたものを入れて完成版を作り、それをもう一度この場で検討して、次のパブリック・コメントに進んでいくことが良いと思う。

私はこのような振興計画の会議をこれまでいくつか経験してきたが、回数としても、もう少し時間をかけていいと思うので、もう1度審議会を開催して、パブリック・コメントに進みたいと思うが、事務局として、スケジュールは大丈夫か。

事務局

スケジュールとしては、遠くない先の日で次の審議会を再設定するということになるので御承知いただきたい。

会長

委員の皆様は私の提案についていかがか。

委員

異議なし。

会長

他に御意見はあるか。

委員

資料2の7ページ、施策1-5の指標「直接体験を重視した教育を行い、幼児の好奇心・探究心が十分に育った」に答える場合、今ある各幼稚園の環境を生かして、指標内容に向かって努力しているので、指標の結果としては、高い数値が出てしまうと思われる。そうすると、施策の目的に戻った時に、「一人一人の発達の特性に応じた質の高い教育を提供する」、「家庭教育への支援を充実させる」といった、客観的な目的に戻った時に、教育、保育の無償化であったり、それから姫路市子ども・子育て支援事業計画がまた新しくなったりという様々なことが関係してくる中で、指標が高いことで目標が達成できたと考えるのは、私としてはいかがなものかと考える。

この指標は子供たちの中に学びとか教育の成果が現れたかというところであって、環境がそれで良いと考えると違うと思うので、そこは発言させていただいた。

会長

事務局は参考にしてほしい。



委員	<p>資料3の4ページ、(2)本市教育を取り巻く社会情勢等 ウ 教育の機会均等のところで、貧困、外国籍、未就学の子供たちに加えて、「障害の有無に関わらず共に学ぶことができるインクルーシブ教育システムの構築を図る」というようなことを入れていただきたい。障害の有無に関わらず教育の機会は保障されるべきだと思うので、入れていただきたいと思う。</p>
会長	<p>本日はこれで終わりたい。本日出た多様な意見は事務局で整理していただきたい。議事を事務局にお返りする。</p>
事務局	<p>4 連絡事項</p> <p>それでは、次回の日程について、お知らせする。</p> <p>次回、第4回審議会を8月下旬から9月に開催していきたいと考えている。</p> <p>日程について、会長と調整をして、追ってご連絡申し上げる。</p> <p>なお、次回、やむなく欠席となってしまった場合については、会議までに事務局まで御意見などをいただきたい。</p>
事務局	<p>5 閉会</p> <p>以上で本日の審議会を終了する。</p>